

子曰く、其の以す所を視、其の由る所を觀、其の安んずる所を察すれば、人焉んぞ瘦さんや。

【大体の意味内容】先生はおっしゃった。「その人の行いを見ること。その人の信念を見抜くこと。その人が満足する到達点を洞察すること。そうすることで、その人の本質が隠れることなく露わになってくる。」

他人を評価する観点として実に鋭い指摘だと思えます。とくに「其の安んずる所を察す」とは恐るべきトリガーポイント銃砲の引き金のような最大効力を発揮するツボの発見だと思えます。単なる点数や成績・業績などといった表面的なことではなく、その人が究極的に求める安心立命の境地とはどのようなところなのか。それを洞察できれば、確かにその人物の本質的価値が丸見えになるでしょう。逆に言うと、自分自身の行いや信念理念、そして自分が「安んずるところ」を自身で洞察してみることが述べているのだと思います。きっと今の自分とは、他人に見抜かれてはたまらない、恥ずべきレベルではないはず。自分の安んずるところを知られては、到底自分の恥を隠すことなどできないからです。

自分自身をよくよく考えて、いったいどんな恥を自分は抱えているのか自覚しなければならぬ。それがほんとうの「恥を知る」じゆなのではないか。